

美術史・文化遺産特殊講義1B－II

科目ナンバリング FAH-202
選択必修 2単位

岡部 昌幸

1. 授業の概要(ねらい)

グローバル・アート・ヒストリーの観点から、日本美術史、西洋美術史、東洋美術史を包括して幅広く、楽しく学びます。西洋の近代諸科学において美術史学は、文化史の重要な一分野であったにとどまらず、さまざまな学問の研究方法に影響を与えた先端的学問でした。また美術(art)とは、全芸術(art)を代表し、技術(art)を表す言葉であることからわかるように、哲学、神学、思想を表現する手段であり、愛、感情、心理を訴える方法でもあります。さらに美術は、民族、歴史、文化を伝承する現象であり、社会、風俗を反映する記録資料でもあり、数学、物理学、簿記学、化学、医学、動植物学、工学の科学的探究を導き、精神を鍛錬修養し、心を癒す機能も備えています。今日、世界でもっとも知られている日本の歴史上の人物は葛飾北斎であるといわれますが、19世紀の欧米を席捲したジャポニスム(日本美術心酔)の余波がそこに見られます。日本の国際的価値とイメージを、平和的、知的に高めたのは美術だったのです。そして美術は、人類の所産を集めた博物館の分野で最大のものでもあります。以上、関連のある学生諸君には率先して美術史の基礎知識を学ぶことを薦めます。講義は毎回スライド、DVD等の映像教材を使用します。今学期は、聖書と美術、建築を軸として学びます。

2. 授業の到達目標

美術史の研究方法に親しみ、研究発表に触れる。

3. 成績評価の方法および基準

①授業態度を重視します。②学期中に小レポートを2、3回、そして③学期末に400字×10枚程度のレポートの提出、④指定された美術館・歴史的文化財の見学、学外授業を課し、およそ①を30%、②を15%、③を40%、④を15%の割合で総合評価を行います。

4. 教科書・参考文献

教科書

授業中に指示します。

参考文献

授業中に指示します。

5. 準備学修の内容

美術館の見学、学外授業を課します。また、学外で実技の学習やワークショップをする予定です。

6. その他履修上の注意事項

多様なジャンルを広く概観するためには、自主的な勉強と旺盛な好奇心が必要です。受講者にもこの講義の流れに沿い、それぞれ自分自身が受講の目標の設定、学習の計画、将来の展望を明確にもって、この講義の受講を有意義なものとする意欲と心構えを前提として求めたいと思います。

7. 授業内容

- 【第1回】 イエス・キリストと新約聖書の美術(1)
- 【第2回】 イエス・キリストと新約聖書の美術(2)
- 【第3回】 イエス・キリストと新約聖書の美術(3)
- 【第4回】 イエス・キリストと新約聖書の美術(4)
- 【第5回】 学外授業－美術館
- 【第6回】 旧約聖書と美術(1)
- 【第7回】 旧約聖書と美術(2)
- 【第8回】 旧約聖書と美術(3)
- 【第9回】 旧約聖書と美術(4)
- 【第10回】 古代の建築
- 【第11回】 中世の建築
- 【第12回】 ルネサンス・バロックの建築
- 【第13回】 学外授業－美術館見学
- 【第14回】 19－20世紀の建築
- 【第15回】 日本の建築